

第3学年 英語科学習指導案

令和2年 9月17日 5校時

石垣市立石垣中学校3年1組

男子16名 女子19名 計35名

授業者 伊波 貴史 ㊞

1 校内研究テーマ

自ら学び、考え、表現することで高め合う生徒の育成
～主体的・対話的で深い学びのある授業づくりとその評価を通して～

2 単元名

NEW CROWN3 ENGLISH SERIES New Edition 三省堂
教科書 p.54～61

3 単元の目標

世界のさまざまな国・地域について知ることができる。
関係代名詞（主格・目的格）を理解し、使うことができる。
行きたい場所と、そこでしたいことについてスピーチすることができる。

4 単元について

(1) 教材観

この単元では、登場人物の好きな場所についての発表を読んで、世界の様々な国や地域について理解を深めることを目的としている。それらの内容から、様々な地域についての生活や文化について理解を深め、生徒たち自身も自分の住む地域以外への興味・関心を持つようになるだろうと考える。

また、言語材料として関係代名詞 that・who・which を扱うが、関係代名詞を活用することで、自分の伝えたいことについて、より詳しく豊かな表現で伝え合うことができるだろう。

(2) 生徒観

これまででも、授業において話し合い活動やペア活動を取り入れてきたが、活動が活発に進むグループと中々進まないグループが見られた。しかし、回数を重ねることで、1学期に比べて全体的にうまくいくようになってきた。

1学期に行ったアンケートでは、「ペア・グループ活動が好きである」と85%の生徒が答えており、前向きな姿勢を見せる生徒が多い。一方で、決まった答えのない、思考を問われる問いに関しては、消極的な姿勢が見られ、生徒が苦手意識を持つ部分と考える。

(3) 指導観

本単元を通して、生徒たち自身の世界観がより広がり、異文化についての興味関心が深まるよう導いていきたい。特に3年生ということで、この単元での学習が卒業後またはこれからの生き方について、広い視野で考えることにつながると考える。自分の住む地域以外の場所やそこの生活について関心を持ち、調べ、自分の意見を持って英語で伝える力を身に付けさせたい。

また、関係代名詞の学習をとして、自分の伝えたいことをより詳しく表現できる力を身に付けさせたい。知識・技能を活用する場面を繰り返し設定することで英語表現に慣れさせ、自分の意見や考えを表現することへの苦手意識をなくしたい。

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
〈知識〉 関係代名詞の主格の that, which, who の制限適用法を	自分の行きたい場所について、 聞き手の興味や理解が深まるよ うに、その国や地域について、	自分の行きたい場所について、聞 き手の興味や理解が深まるよう に、その国や地域について、事実

<p>用いた文の構造を理解している。</p> <p>〈技能〉自分の行きたい国や地域について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、関係代名詞の制限用法を用いて伝えることができる</p>	<p>事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文を用いて伝えたりしている。</p>	<p>や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文を用いて伝えようとしている。</p>
--	---	--

6 単元の指導計画(全 10 時間)

【*評価規準の欄には「記録に残す評価」のみ記載する】

時	学習活動	指導上の留意点	評価規準 (評価方法)
1	<p>■ 関係代名詞 主格 “that” の用法について理解する。</p>	<p>・ 関係代名詞の導入のため、関係代名詞を用いた名詞句に焦点を当て、口頭練習を行う。</p>	
2	<p>【本時】</p> <p>■ 関係代名詞 主格 “which” “who” の用法について理解する。</p>	<p>・ 身近な場面を設定し、本時で学習する文法を複数回、グループで活用することで理解を深める。</p>	
3	<p>■ Part1、Part2 の内容を理解することができる。</p>	<p>・ 関係代名詞の用法の理解を深めると共に、スピーチの内容(事実、自分の気持ち、感想)の構成に焦点を当てる。</p>	
4	<p>■ 関係代名詞 目的格 “which” “that” の用法について理解することができる。</p>	<p>・ 世界の様々な国や地域のクイズを作成することで、その土地の理解を深めると共に、関係代名詞 目的格の活用を図る。</p>	
5	<p>■ Part3 の内容理解し、自分のスピーチについて考える。</p>	<p>・ メイリンのスピーチの構成に焦点を当て、聞き手の興味を引くスピーチについて考える。</p>	
6	<p>■ Read ジグソー読みを行い、自分のパートについてリテリングすることができる。</p>	<p>・ 内容を大まかに理解させ、リテリングを行う。また、スピーチの構成(オープニング・ボディ・コンクルージョン)についても気づきを促す。</p>	
7	<p>■ 自分の行きたい国についてのスピーチの準備を行う。</p>	<p>・ Read のスピーチを基にスピーチを作成する。</p>	
8	<p>■ 自分の行きたい国についてのスピーチをすることができる。</p>	<p>・ グループでビデオを撮影する。</p>	<p>【思考・判断・表現】 関係代名詞 “that” “which” “who” を用いて自分の行きたい場所について、聞き手を意識して効果的に紹介することができる。 (パフォーマンステスト) 【主体的に学習に取り組む態度】 聞き手を意識して伝えようとしている。 (パフォーマンステスト)</p>
9	<p>■ 学級内の模範となるスピーチを聞く。ペーパーテストを行う。</p>	<p>・ 実際のスピーチを聞き、世界の国や地域の理解を深めると共に、関係代名詞の使われている文にも焦点を当てる。</p>	<p>【知識・技能】 (ペーパーテスト)</p>
10	<p>■ 単元のまとめ</p>	<p>・ テストの解説</p>	

7 本時の学習(2/10 時間目)

(1) 関係代名詞 主格 which、who を活用し、沖縄の有名な人物やものを紹介することができる。

(2) 展開 (事例)

	学習活動	形態	教師の支援(支)と評価(評)
導 入	1 あいさつ	ペア	【評】 ペアでやりとりができているか。 【支】 活動が厳しい生徒を見取り、声掛けをする
	2 Warm-Up 1 minute speaking (What is your favorite Okinawan food?)		
3 めあて			
まとまりのある文で、ステファニーに沖縄の有名な人やものについて説明できる。			
	4 文法の導入 ロールプレイを見せる		【評】 関係代名詞 who、which の用法が理解できているか。
展 開	5 スピーキング活動 場面 (空港) ・ステファニー ・島人 ・ピラ配り ・助っ人(必要であれば島人を助ける) 活動→相談タイム→活動・・・を繰り返 し行い、生徒同士で表現をより良いもの にしていくように促す	グ ル ー プ	【評】 関係代名詞 which、who を用いて ロールプレイを行えているか 【支】 いくつかのグループの良い例や質問 を全体にシェアする
	6 いくつかの班にクラスの前でロールプ レイを見せてもらう		
	7 口頭練習	全 体	
終 末	8 まとめ	個	【評】 振り返りシート
	9 振り返り		

(3) 板書計画

めあて：まとまりのある文で、ステファニーに沖縄の有名な人やものについて説明できる。

(Schedule)

- ・1 min speaking
- ・リスニング
- ・グループ活動（4人）
- ・まとめ

Gushiken Yoko is an entertainer **who** was a boxing champion.

Miru Miru is an icecream shop **which** has delicious hamburgers.

まとめ：関係代名詞を使うと、まとまりのある文を作ることができる。

(4) 授業視点

- ・効果的なグループワークができていたか
- ・生徒が自ら考える場面があったか
- ・授業の展開に活かすための生徒の見取りができていたか